

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 1 月 10 日 (2013.1.10)

【公開番号】特開 2010-157996 (P2010-157996A)

【公開日】平成 22 年 7 月 15 日 (2010.7.15)

【年通号数】公開・登録公報 2010-028

【出願番号】特願 2009-265536 (P2009-265536)

【国際特許分類】

H 0 4 N 1/04 (2006.01)

H 0 4 N 1/10 (2006.01)

H 0 4 N 1/107 (2006.01)

G 0 6 T 1/00 (2006.01)

G 0 3 B 27/62 (2006.01)

G 0 3 B 27/50 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 1/04 1 0 5

H 0 4 N 1/10

G 0 6 T 1/00 4 3 0 E

G 0 3 B 27/62

G 0 3 B 27/50 A

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 11 月 16 日 (2012.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の方に配列された複数の受光素子からなる読取部を前記所定の方と直交する方に移動させることにより原稿載置面に載置された原稿から 1 ライン毎に読み取りを行なう原稿読取装置であって、

前記原稿載置面における前記読取部の移動方向に沿った辺の近傍に設けられるパターン部と、

前記パターン部を前記複数の受光素子の内、該パターン部に対応する位置に設けられた複数の受光素子を用いて読み取った結果に基づいて前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への駆動情報を演算する制御部と、

前記制御部により演算された駆動情報をフィードバックして前記読取部の前記移動方向への駆動を制御する駆動回路と

を具備し、

前記パターン部には、

前記所定の方に対して傾きを有する線が前記読取部の前記移動方向に周期的に形成される

ことを特徴とする原稿読取装置。

【請求項 2】

前記制御部は、

前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への移動量と、該移動量に基づいてその移動速度とを演算し、

前記駆動回路は、

前記制御部により演算された位置情報及び移動速度をフィードバックして前記読取部の前記移動方向への駆動を制御する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の原稿読取装置。

【請求項 3】

前記駆動回路は、

前記読取部の前記移動方向への前記線の長さを 1 周期とした場合、前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への移動量が前記線の 1 周期よりも短くなるように駆動を制御する

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の原稿読取装置。

【請求項 4】

前記読取部の前記移動方向へ周期的に形成される線は、同一の太さにより形成されることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の原稿読取装置。

【請求項 5】

前記読取部の前記移動方向へ周期的に形成される線は、複数種類の太さにより形成される、

前記制御部は、

前記読取部の前記移動方向への前記線の長さを 1 周期とした場合、線の太さが異なることを起因として生じる前記読取部による読取結果に基づいて、前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への移動量が前記線の 1 周期を越えたことを検出し、該検出結果に応じて前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への駆動情報を演算することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の原稿読取装置。

【請求項 6】

所定の方向に配列された複数の受光素子からなる読取部を前記所定の方向と直交する方向に移動させることにより原稿載置面に載置された原稿から 1 ライン毎に読み取りを行なう原稿読取装置の制御方法であって、

前記原稿載置面における前記読取部の移動方向に沿った辺の近傍に設けられるパターン部を前記複数の受光素子の内、該パターン部に対応する位置に設けられた複数の受光素子を用いて読み取った結果に基づいて前記読取部の 1 ライン読取周期あたりの前記移動方向への駆動情報を演算する制御工程と、

前記制御工程で演算された駆動情報をフィードバックして前記読取部の前記移動方向への駆動を制御する駆動工程と

を含み、

前記パターン部には、

前記所定の方向に対して傾きを有する線が前記読取部の前記移動方向に周期的に形成される

ことを特徴とする原稿読取装置の制御方法。